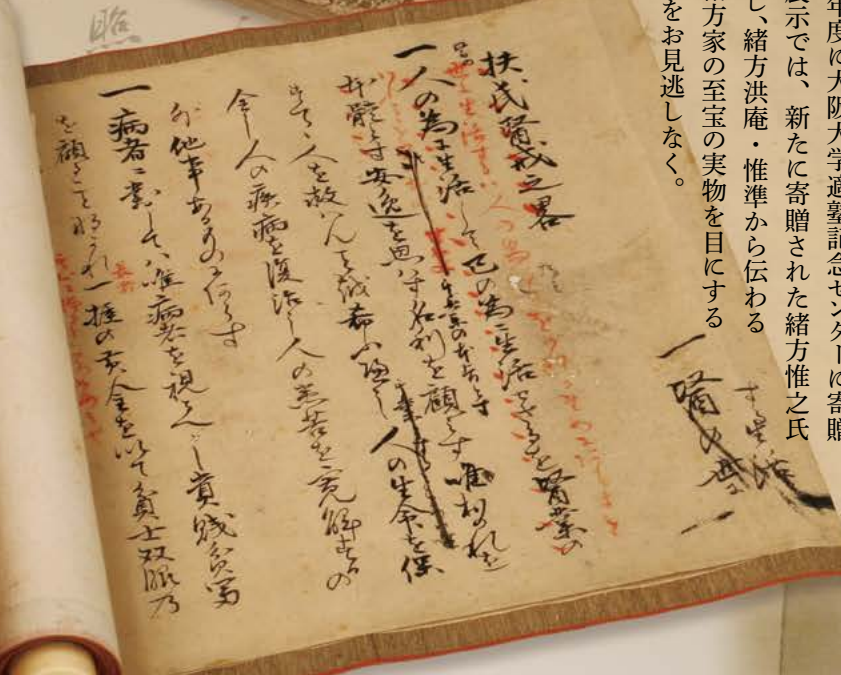


平成28年

適塾特別展示

# 洪庵・惟準から伝わる 緒方家の至宝

日本近代医学史に重要な功績を残した緒方洪庵の医の精神は、洪庵から伝わる貴重資料から垣間見ることができます。特に医者への心得を説いた「扶氏医戒之略」、種痘事業の苦難を記した「除痘館記録」は、洪庵の肉筆であるだけに、より迫真力を備えています。これらを含む、洪庵とその嗣子・惟準から玄孫の惟之氏に伝えられた貴重資料が、平成27年度に大阪大学適塾記念センターに寄贈されました。今回の特別展示では、新たに寄贈された緒方惟之氏旧蔵資料を厳選して展示し、緒方洪庵・惟準から伝わる医の系譜を紹介します。緒方家の至宝の実物を目にする事ができる、貴重な機会をお見逃しなく。



## — 新寄贈資料展 —



### 適塾 (史跡・重要文化財)

大阪市中央区北浜3-3-8 電話 06-6231-1970

会期: 5/31(火) - 6/12(日) 10時~16時

※6月6日(月)は休館

参観料

一般 260円(140円)、高校生・大学生等 140円(80円)  
※( )内は20人以上の団体  
小学生・中学生および大阪大学の学生 無料  
※中学生以下の方は引率が必要



### 大阪大学会館 歴史展示室

大阪府豊中市待兼山町1-13(大阪大学 豊中キャンパス)

会期: 4/25(月) - 5/13(金) 10時30分~17時

※大阪大学会館の休館日にご注意ください。

阪大豊中  
キャンパスで  
プレ公開!

4/25	26	27	28	29	30	5/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
				休	いちょう祭			休				休						

5月1日・2日は大阪大学で「いちょう祭」開催中!

〈主要な展示資料〉

緒方洪庵筆「扶氏医戒之略」安政4年(1857)、後藤松陰賛・薮長水筆「緒方洪庵肖像画」安政6年(1859)、緒方洪庵筆「除痘館記録」万延元年(1860)、  
「明治八年次乙亥 生徒姓名簿」明治8年(1875)、「紀元二千五百四拾歳 入門人名録」明治13年(1880)、緒方惟準筆 和歌短冊、緒方銚次郎「欧州洋行日誌」明治22年(1889)

主催: 大阪大学適塾記念センター・適塾記念会  
共催: 大阪大学総合学術博物館、緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室

大阪大学



大阪大学  
適塾記念センター

## 洪庵から伝わる医師の心得12条

### 「扶氏医戒之略」

緒方洪庵の著訳として最大の業績は、ドイツ人医師フーフェラントの内科書 *Enchiridion medicum, oder Anleitung zur medizinischen Praxis* (『医学必携、臨床入門』1833年)を20年がかりで重訳した『扶氏経験遺訓』全30巻(1857-1861)です。この原書第2版の末尾に記された *De verpligtingen des geneesheers* (「医者之義務」)を、洪庵が平易な日本文12条に抄訳したものが「扶氏医戒之略」でした。洪庵はこれを自戒とし、弟子への教訓として書き与え、現在でも医療関係者の精神的支柱となっています。現存する諸本のうち、緒方家伝来の本資料は墨と朱による推敲の跡が残っている点に特徴があります。医祖ヒポクラテスの医戒、キリスト教精神と西洋自然科学の上に、東洋医学と洪庵自身の思想を重ね、それを後学に伝えることに、洪庵がいかにか心を砕いたかを窺い知ることができます。



緒方洪庵筆「扶氏医戒之略」 安政4年(1857)  
(大阪大学適塾記念センター所蔵(緒方惟之氏旧蔵))

## 洪庵から伝わる種痘事業の苦難

### 「除痘館記録」

緒方洪庵の医療面での功績として、牛痘種痘法の普及は特筆すべきものです。イギリス人医師ジェンナーが1796年に開発したこの方法は天然痘予防として有効かつ安全なもので、日本には嘉永2年(1849)に牛痘苗がもたらされました。この年、洪庵は日野葛民とともに大坂古手町(現・大阪市中央区道修町4丁目)に除痘館を開き、種痘事業を開始します。しかし牛由来のワクチンを接種することに抵抗感を抱く人々に受け入れてもらうことは容易ではなく、利益を度外視して事業に当たらざるを得ませんでした。町人の大和屋喜兵衛等の経済援助や洪庵に協力する医師たちの努力の甲斐あって、安政5年(1858)には幕府の公認を受け、西日本における種痘普及の拠点となりました。「除痘館記録」は、その設立経緯から運営上の苦難について、洪庵自らが筆をとってしたためました。



緒方洪庵筆「除痘館記録」 万延元年(1860)  
(大阪大学適塾記念センター所蔵(緒方惟之氏旧蔵))

## 惟準から伝わる明治の適塾門人帳

### 「明治八年次乙亥 生徒姓名簿」と「紀元二千五百四拾歳 入門人名録」

緒方洪庵は文久二年(1862)、幕府奥医師・西洋医学所頭取に就任し、翌年に江戸で逝去しました。洪庵不在となった適塾の教育は、養子の拙齋さらには嗣子の惟準が担い、明治19年(1886)頃まで続けられました。その事実を証明するのが、「紀元二千五百四拾歳 入門人名録」です。ここには明治2年からの入門者162名の名前が記されています。

一方、「明治八年次乙亥 生徒姓名簿」は、東京・神田駿河台(現・明治大学敷地内)に存在した東京適塾の門人帳です。東京適塾は明治5年、惟準が陸軍軍医寮創設の任に当たるため上京したことを契機に創設され、大阪鎮台病院長に赴任する明治11年に閉鎖したと考えられ、その間199名の入門者の署名があります。近代に入っても、洪庵の医業と教育が惟準に引き継がれ、さらにはその門下生に伝えられたことを示しています。



(左)「明治八年次乙亥 生徒姓名簿」 明治8年(1875)  
(右)「紀元二千五百四拾歳 入門人名録」 明治13年(1880)  
(大阪大学適塾記念センター所蔵(緒方惟之氏旧蔵))